

サイクルロゲイニング大会

かわまたで遊ぶ

川俣町を自転車で巡り、町の豊かな自然や文化、食などを満喫してもらおうと「川俣ぐるぐる・ポイントラリーサイクルロゲイニング大会」が開催されました。



人と繋がれば町と繋がる

イベントのチェックポイントの1つでもあるおじまふるさと交流館の佐藤光正さんは、近畿大学や聚溪会とともに企画段階から携わってきました。「チェックポイントにお店や施設を選ぶことで自然と町民と触れ合うことができ、その町の雰囲気より伝えることができる」と考えました。普段は少し内気な人もイベントなどの協力を仰げば、返事ひとつで協力してく

れる人が多い川俣町。大きいイベントとなると外部に委託することが多いですが、町全域をフィールドに開催するという初めての試みも産学官民合同で企画運営することでスムーズな連携が可能となり、手づくりで成功させることができましたのだと思います」と初開催の本イベントに手応えを感じていました。



おじまふるさと交流館
みつまさ
佐藤 光正 さん (小島)



そもそも「サイクルロゲイニング」って何？

コース地図上に多数設置されたチェックポイントから自由に選び出し、制限時間内に自転車でチェックポイントを巡ります。各チェックポイントには点数が割り当てられており、時間内に獲得した点数を競います。



▲当日に渡されたマップにマーカーなどで印を付ける参加者





check !!

近畿大学4年
文化会総務事務部長

宮野
佑輔さん

このイベントを持続的なものにするためには町民の方に関わってもらうことがカギになると思い、佐藤さんをはじめ町内企業や有志の方と会議を重ねながら企画を練りました。川俣町の人はいつも温かく僕たちを受け入れてくれて、積極的に関わってくれるので今後も学生と地域の方、川俣町が手を取り合い町が活性化していけたらいいなと思います。



1 スタート地点の旧富田小学校から勢い良く飛び出す参加者 2 ポイント獲得は撮影で行う 3・6・7 食事や体験でもポイントが付いた 4 小手姫像もチェックポイントに 5 おじまふるさと交流館ではビビンソーメンが振る舞われた



積み重ねの可能性

「今回のイベントで当日の運営や実際の試走のほか、おじまふるさと交流館で振る舞われたビビンソーメンの共同開発など町の地域活性化に深く携わってくれている近畿大学の皆さんには感謝してもしきれません。近畿大学の皆さんとは震災以降様々な企画を考えてきましたがこうやって積み重ねてきたことが実を結びと嬉しいですね」と笑みをこぼしていました。続けて佐藤さんは「今後は「季節を変える」「テーマを設定する」など工夫を凝らしながらこのイベントが定着していったら嬉しいですね。移住定住への効果がすぐ出るとは限らないですが、小さな積み重ねがこの町の可能性を広げていくと信じています。例えば今回のイベントで来てもらったら、次回は町内に泊まってもらったり、友人と来てもらったり。そうやってどんな形でも町との関係が続いていけば良いなと思います」と期待に声を弾ませていました。

-interview-



中原 悟さん
(北茨城市)

川俣町には何度か来たことがありましたが、それでも知らなかった場所があり、イベントと合わせて楽しく周ることができました。



飯野 さくらさん
(仙台市)

自然が多く空気が美味しくて、地元を思い出しました。スタッフの方を含めて町の方がとても温かく接してくれて楽しかったです。



江崎 馳翔世くん
(川俣町)

いつも車で走る坂道を自転車で登ったり、町外へ行かないと体験することができない乗馬が身近でできてとても楽しかったです。